

第39停泊所

2026年10月2日
責任者：山口　明日波
編集者：武井　直人
阿部　翔太
波紫　圭

第25回自治労青年女性中央大交流集会



7月31日～8月2日にかけ、第25回自治労青年女性中央大交流集会(通称：中央交)が仙台市で開催されました。当日は、全国から1000名近くの仲間が結集し、学習と交流を図ってきました。今回も、地連代表の参加となりましたが、東京清掃の仲間と共に3日間取り組みを貫徹してきました。初日は、労働政策研究・研修機構の松上氏から賃金を上げるために必要なことについての講演や、文化交流を行いました。文化交流では今年、東京都本部として『反合理化』をテーマに清掃職場を舞台に構成詩を披露しました！！

2日目の職種別分散会は、他県本部の地域環境や清掃事業に携わる仲間と職場での悩み、不安、賃金などについて事前アンケートを基に議論してきました。また、労働組合として取り組むべき、反戦平和、差別人権についても意見を共有し合い、共に安心して働き暮らせる職場・社会とは何か考えることが出来ました。

夕食時には、交流会も開催され、茨城県本部の仲間と趣味などの他愛もない話から、普段の職場での悩み相談といった様々な会話を交わしている姿が散見され、楽しく交流することができました！

最終日は、元自治労本部青年部長の佐藤氏からの青年部・女性部の役割をテーマに講演を受け、その後分散会報告や会場全員で労働歌を合唱しました。

3日間を通じ、全国の仲間から話を聞き、多くの学びや気づきを得るとともに、自治体の垣根を超えた仲間と交流することができました。来年は、自治労関東甲地連夏期交流集会(通称：夏期交)が予定されています！引き続き、都市を超えた全国の仲間が集まる場に結集し、共に学び、交流を重ね「横のつながり」を作っていきましょう🔥

～構成詩～

★構成詩とは？

構成詩とは、言葉や身体表現を通じて、仲間の想いや現場の実態、社会の課題を寸劇という形で多くの仲間と共有する取り組みです！！

★東京都本部構成詩

『私たちはどうして“夢”を追いかけるのか』

今回、東京都本部で清掃職場の日常を題材にし、反合理化をテーマに構成詩に取り組みました。

可燃ごみ収集を行っている若手職員が早く現場を終わらせて休憩を取るのが効率的としか考えていない先輩との日々に悩んでいた。そんな時に参加した中央交で、全国の仲間との会話の中で自分の当たり前の働き方が「中身のない合理化」ということに気づく。そんな職場を変えていくため、要求書作りや青年部からの声掛けの強化などに取り組みはじめた仲間の成長を描きました。会場からも大反響で、なかなか聞く機会が少ない現業職場の実態を知ってもらうきっかけともなり多くの仲間から声をかけてもらいました！！

中央交の経験って大きいんです！今回、行うにあたり東京清掃からも仲間が参加してくれました。協力してくれた皆さんありがとうございました

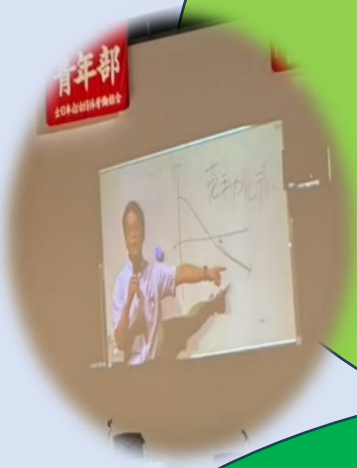


分散会



全国の環境に関わる業務を担っている仲間と職場や賃金実態について議論しました。職場実態では、合理化による人員不足といった共通の課題や悩み、不安を抱えているが、自らが変わることが美学という考えから労働組合が身近でない実態が報告されました。賃金の議論では、物価に対してベアが追いついていないという声や評価基準が住民に直結する部署ばかり評価され、部署ごとの差が大きいなどの意見がありました。一方、青年部が中心になり、独自要求に取り組んだことで自信がついたといった声を上げる重要性を学ぶこともできました。

講演①



松上氏の講演では、資本主義社会における、需要と供給のメカニズムについて学習しました。

労働力は「商品」として扱われ、賃金（価格）を放置すると、下落し続けてしまう。そのために労働組合が労働力の供給を制限し、市場への影響力を持つことで、賃金を適正に保つことが出来きる。また、色んな職場で人員不足が叫ばれてるが、日本の完全失業者は１８５万人もいます。これは興味深い矛盾と言える。

日本の公務員には、労働基本権が一部ないことは世界的には異常で、労働組合の力が弱まっている証拠であり、労働者の権利を回復するには政治との関わりも切れないし、当事者意識は重要です。年々、厳しさが増す社会において日本人はもっと怒った方が良いと感じる！

講演②



佐藤氏からの講演では、自身の青年活動を振り返りながら、青年部の役割について話がありました。自分は就職氷河期世代で、公務員になれば安泰だと思ってた。実際はそんなことはなく、当時は賃金もマイナス勧告ばかりで採用抑制もあった。今の労働条件は当たり前ではなく、仲間の運動によって作られてきたものだ。

私たち自治体職場は、議会の決定に大きく左右される。その場に代弁者がいなければ、私たちにとって不利益なことも決まってしまう。私たちは政治に無関心ではいられない。無関心であれば、いずれ政治によってつぶされてしまうこともあり得る。職場環境はすぐに改善されることはない。労働組合運動は短期間で完結するものではなく、長い時間がかかる。それでも仲間同士で繋がっていき、少しの積み重ねが職場を変えていく。職場が変われば自治体も変わり、積み重ねがいつか社会を変えていく。

仲間からの感想

なんとなく参加した交流会だったが、さまざまな職場の人との交流を通して、自分の仕事や職場を改めて見つめ直し、安全意識や周囲とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができた、実りある三日間だった。

他の職場で起きている人手不足の問題は、今後自分たちの職場でも起こり得る課題であり、地域の生活を支えるごみ収集業務を安全かつ安定して続けるためには、早い段階から十分な人員を確保していくことが重要だと感じた。

社会情勢の変化を踏まえ、仲間との情報共有と一人ひとりの声を大切にしながら、より良い職場づくりと組合活動につなげていく重要性を学んだ。

初めての参加で緊張もあったが、他支部・他職種の仲間と交流し、共通する悩みを共有することで、分散会の意義と参加する楽しさを実感した三日間だった。

全国の仲間との交流を通じて、より良い職場づくりには自分たちが関心を持ち、意見を出し合いながら行動することが大切だと学び、今後の仕事や青年部活動につなげたいと感じた。

「交流と議論を通じて見えた課題を職場へ持ち帰り、仲間と共有して行動につなげることが、今後の組合活動に不可欠だと学んだ三日間だった。

全国の仲間との交流を通じて、仕事・社会・平和への視野を広げ、他自治体の取組も参考にしながら、仲間が安心して働けるより良い職場づくりへ行動していく大切さを学んだ。

構成詩・表現ともに完成度が高く、メッセージ性の強い構成詩だった。自分も次は披露する側で関わりたい！

学んだ事を職場の仲間と共有し、対話を通じて、よりよい職場づくりに活かしていきたい！

職種は違っても、青年部活動の停滞や参加者の固定化など、共通する悩みを抱えていることに気づいた。

